

イーストスプリング・ インド株式ファンド(3ヵ月決算型)

追加型投信／海外／株式

第33期(決算日:2016年3月15日)

第34期(決算日:2016年6月15日)

作成対象期間(2015年12月16日～2016年6月15日)

第34期末(2016年6月15日)	
基準価額	7,149円
純資産総額	12,437百万円
第33期～第34期 (2015年12月16日～2016年6月15日)	
騰落率	△8.9%
分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記[お問い合わせ先]ホームページアドレスにアクセス⇒上部「運用状況」のタブを選択⇒「運用状況一覧」ページを表示⇒当ファンド記載の中にある「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「イーストスプリング・インド株式ファンド(3ヵ月決算型)」は、2016年6月15日に決算を行いました。

当ファンドは、主としてインドの金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成期につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

【お問い合わせ先】

電話番号:03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

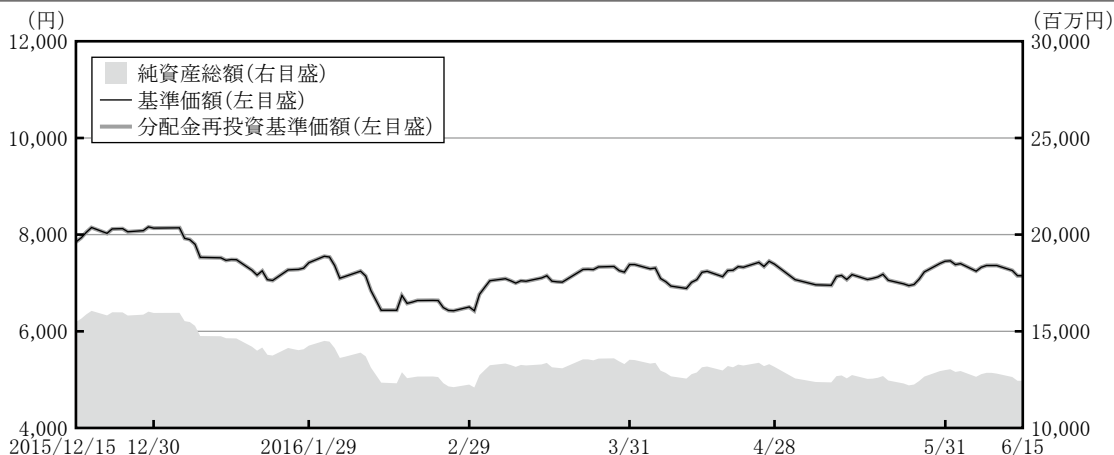
ホームページアドレス:<http://www.eastspring.co.jp/>

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

運用経過

基準価額等の推移について(第33期～第34期:2015年12月16日から2016年6月15日まで)



第33期首	7,849円
第34期末	7,149円(既払分配金0円)
騰落率	△8.9%(分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

基準価額の主な変動要因

インド株式市場は、中国の景気減速懸念を背景とした外部環境の悪化で2016年初めに急落しましたが、2月末に発表されたインドの2016年度予算案の内容が評価されたことや今年のモンスーン期の降雨量が平年を上回るとの気象局の予想を受けた期待感から買い戻され、通期では上昇しました。しかし、世界的な投資家のリスク回避姿勢が強まったことや日銀によるマイナス金利導入を受けた円高の進行でインドルピー安円高となったことから、基準価額は下落しました。

1万口当たりの費用明細

項目	第33期～第34期 2015/12/16 ～2016/6/15		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	49円	0.663%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、7,379円です。
(投信会社)	(20)	(0.270)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(28)	(0.378)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.015)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	1	0.013	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(1)	(0.008)	目論見書及び運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
(その他)	(0)	(0.000)	余資運用に係る費用（マイナス金利相当額）
合計	50	0.676	

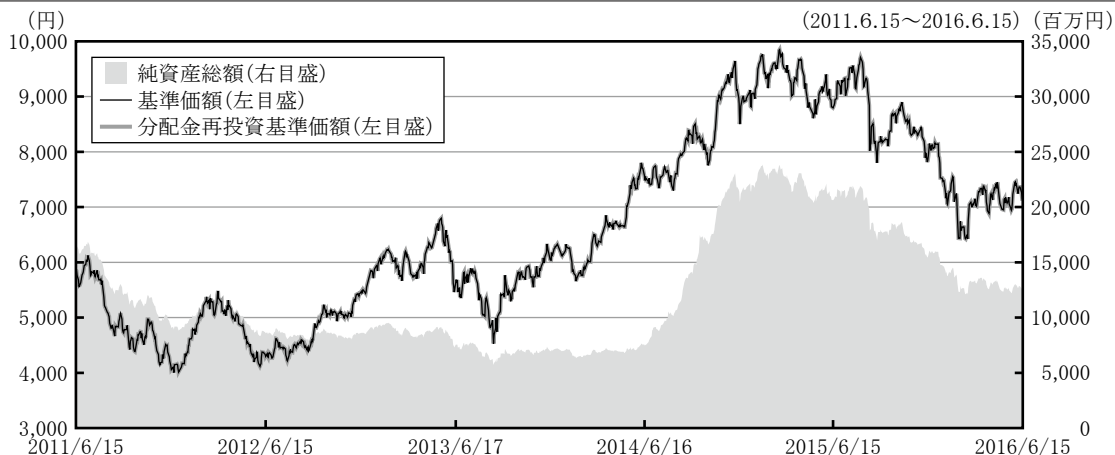
(注1) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様が利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 最初の分配金が出るまでの期間においては、基準価額を示す折れ線と分配金再投資基準価額を示す折れ線は重なって表示されます。

決算日	2011/6/15	2012/6/15	2013/6/17	2014/6/16	2015/6/15	2016/6/15
基準価額 (円)	5,853	4,296	5,648	7,567	8,797	7,149
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△26.6	31.5	34.0	16.3	△18.7
純資産総額 (百万円)	16,780	8,582	7,540	7,547	20,617	12,437

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

○海外株式市況

2016年1月に中国の景気減速懸念を背景に世界的な株安となり、インド株式市場も下落しました。2015年10－12月期の決算で銀行が不良債権への引当金を積み増したことも投資家心理を冷やす要因となりました。2月末に発表された2016年度予算案において、事前予想に反し2016年度の財政赤字の対国内総生産（GDP）比率を3.5%とする従来の目標が堅持されたことを受けて、利下げ期待が高まり反発しました。実際に4月初めに追加利下げが行われたほか、インド気象局が示した今年のモンスーン期の降雨量は平年を上回るとの予想を受けて安心感が広がったこともあり、株式市場は堅調な動きとなりました。

○為替市況

インドルピーは、2016年1月に世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まった局面で、対米ドル、対円いずれにおいても急落しました。2月末に発表されたインドの2016年度予算案の内容が評価されて外国人投資家からの資金が流入したことなどから、対米ドルではその後反発し下げ幅を縮小しました。一方、対円では、日銀によるマイナス金利導入以降円高傾向となったことから円高ルピー安が拡大しました。

○国内債券市況

10年国債利回りは2016年1月末に日銀が発表したマイナス金利の導入を受けて大きく低下（価格は上昇）しました。その後も米国の利上げや英国のEU離脱を巡る不透明感から各国債券市場で国債を買う動きが優勢となり、利回りは低下傾向となりました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド（以下「インディア・エクイティ・オープン」ということがあります。）の組入比率を高位に保つよう運用しました。

○インディア・エクイティ・オープン

インド株式を主要投資対象とし、長期的な成長を目指した運用を行いました。個別銘柄調査とバリュエーションを重視し、市場全体およびセクター内で割安に評価されている銘柄を中心に投資を行い、割高となった銘柄の組入れを減らしました。当作成期は、IT株やエンジニアリング・建設株の保有がプラス要因となる一方、銀行株や製薬株の保有などがマイナス要因となりました。

○イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるBofAメルリリンチ国債インデックス（1－10年債）を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。デュレーションを概ね長めに維持し、長期債の金利低下が大きかったことがパフォーマンスにプラスに寄与しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(1万口当たり、税引前)

項目	第33期	第34期
	2015年12月16日 ～2016年3月15日	2016年3月16日 ～2016年6月15日
当期分配金 (円)	—	—
(対基準価額比率) (%)	—	—
当期の収益 (円)	—	—
当期の収益以外 (円)	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	2,350	2,352

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

○当ファンド

主要な投資対象の一つであるインディア・エクイティ・オープンの組入比率を高位に保つことを基本とします。

○インディア・エクイティ・オープン

インド経済については、強気の長期見通しを維持しています。これまでのインド準備銀行(中央銀行、RBI)による度重なる利下げを受けた低金利環境、インフレ率の落ち着き、モディ政権による改革の進展、需要の回復などを背景に、企業業績は上向き可能性があると考えられます。また、インド気象局が今年のモンスーン期の降雨量は平年を上回るとの見通しを示しており、過去2年のモンスーン期は少雨が続いていましたが、今年は十分な降雨量が見込まれることから農作物の生産増により農村部の所得上昇が予測され、消費需要が盛り上がるとの期待も高まっています。国内の政策対応の進展や景気の動向だけでなく、外的要因にも留意しつつ、選別投資を行って参ります。

○イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行いベンチマークであるBofAメリルリンチ国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。日銀による追加緩和期待から、国債利回りは低位で安定的に推移するものと考えられます。

お知らせ

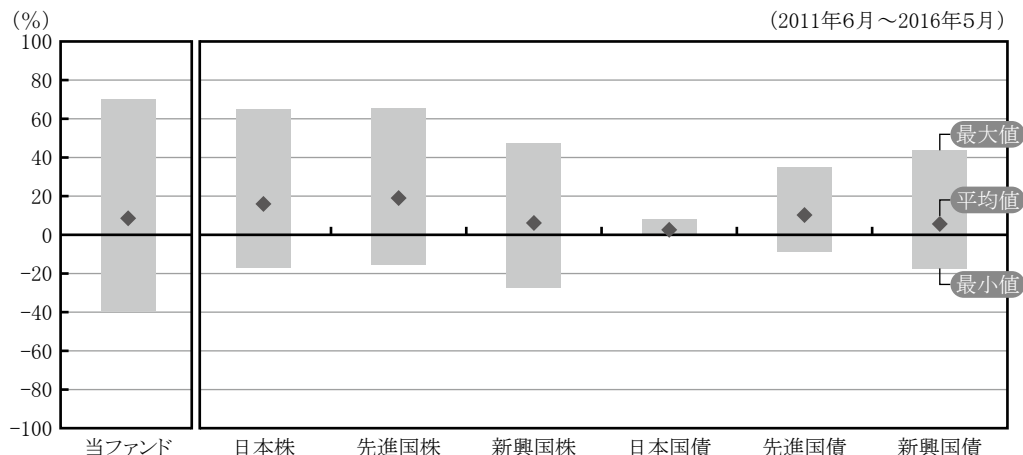
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	原則として無期限(2007年12月18日設定)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主にインドの金融商品取引所に上場されている株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド」の米ドル建て投資証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)」の受益証券(振替受益権を含みます。)を主要投資対象とします。
投資制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時(毎年3月、6月、9月、12月の各15日。休業日の場合は翌営業日。)に、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。

(参考情報)

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(%)	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	8.5	15.9	19.0	6.1	2.6	10.2	5.6
最大値	70.1	65.0	65.6	47.3	7.7	34.9	43.7
最小値	-39.4	-17.0	-15.7	-27.5	0.4	-8.6	-17.4

※当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2011年6月から2016年5月の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<各資産クラスの指数>

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)

新興国株:MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債:NOMURA-BPI国債

先進国債:シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債:JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

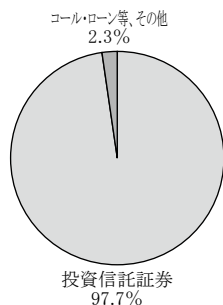
○組入ファンド

(組入銘柄数:2銘柄)

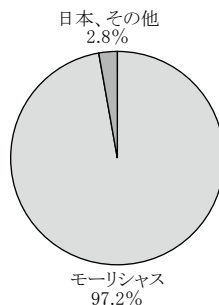
ファンド名	第34期末 2016年6月15日
イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド	97.2%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)	0.5%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

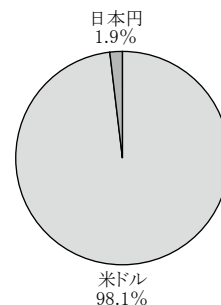
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第33期末 2016年3月15日	第34期末 2016年6月15日
純資産総額	13,365,441,321円	12,437,807,267円
受益権総口数	18,694,142,675口	17,397,531,309口
1万口当たり基準価額	7,150円	7,149円

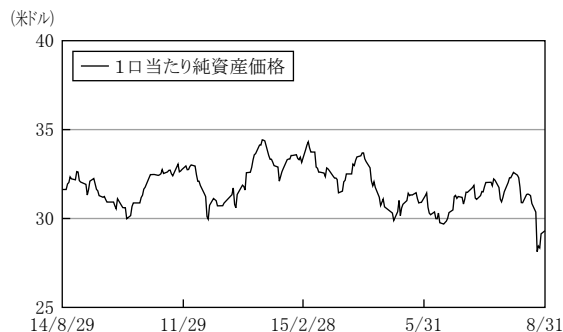
* 当作成期中(第33期～第34期)において追加設定元本額は549,040,966円、一部解約元本額は2,883,679,580円です。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド

(計算期間 2014年9月1日～2015年8月31日)

○基準価額(1口当たり純資産価格)の推移



○1万口当たりの費用明細

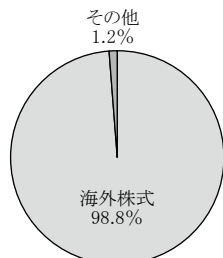
イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッドのFinancial Statements (監査済み)には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

○組入上位10銘柄

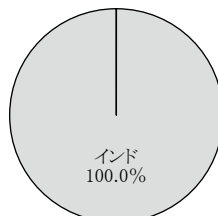
(組入銘柄数:38銘柄)

	銘柄名	業種	国・地域	比率
1	Infosys Ltd	ソフトウェア・サービス	インド	9.5%
2	ICICI Bank Ltd	銀行	インド	7.2%
3	ITC Ltd	食品・飲料・タバコ	インド	6.4%
4	Larsen & Toubro Ltd	資本財	インド	6.3%
5	HDFC Bank Ltd	銀行	インド	4.6%
6	Housing Development Finance Corporation Ltd	銀行	インド	4.4%
7	Coal India Ltd	エネルギー	インド	4.0%
8	Bank of Baroda	銀行	インド	3.8%
9	State Bank of India	銀行	インド	3.7%
10	Dr. Reddy's Laboratories Ltd	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	インド	3.6%

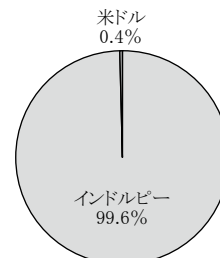
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

◆イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)

(計算期間 2015年2月26日～2016年2月25日)

○基準価額の推移



○1万口当たりの費用明細

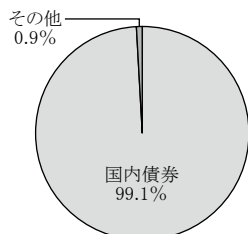
項目	金額
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	23円 (15) (2) (6)
(b) その他費用 (監査費用)	4 (4)
合計	27

○組入上位10銘柄

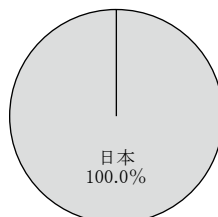
(組入銘柄数:26銘柄)

	銘柄名	種別	国・地域	比率
1	第285回利付国債(10年)	国債	日本	7.5%
2	第80回利付国債(20年)	国債	日本	6.4%
3	第75回利付国債(20年)	国債	日本	5.5%
4	第63回利付国債(20年)	国債	日本	5.2%
5	第48回利付国債(20年)	国債	日本	5.2%
6	第42回利付国債(20年)	国債	日本	5.0%
7	第67回利付国債(20年)	国債	日本	4.8%
8	第311回利付国債(10年)	国債	日本	4.8%
9	第298回利付国債(10年)	国債	日本	4.8%
10	第284回利付国債(10年)	国債	日本	4.6%

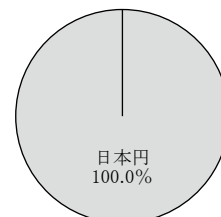
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2016年2月25日現在のものです。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

指数に関して

○当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)」のベンチマークについて

- ・バンクオブアメリカ・メルリンチは、バンクオブアメリカ・メルリンチのインデックスを何ら変更することなく使用することを許諾しており、バンクオブアメリカ・メルリンチのインデックスに関し何らの表明をするものではなく、バンクオブアメリカ・メルリンチのインデックスまたはそれに含まれ、関連しもしくは得られるデータの適合性、内容、正確性、適時性および完全性について保証するものではありません。また、バンクオブアメリカ・メルリンチはイーストスプリング・インベストメンツ株式会社によるバンクオブアメリカ・メルリンチのインデックスの使用に関し一切の責任を負うものではなく、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社またはその商品またはサービスについて何らの支持、是認または推奨をするものではありません。

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
- ・MSCI指数(MSCIコクサイ・インデックス、MSCIエマージング・マーケット・インデックス)はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスはCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスであり、著作権は、Citigroup Index LLCに帰属します。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド(円ベース)はJ.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。